

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成25年度採択分）
「日本考古学の国際情報発信強化」
（課題番号：252014）

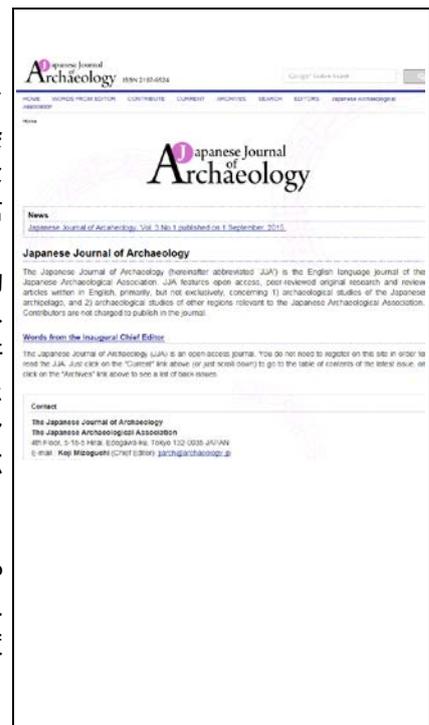
学術団体名：一般社団法人 日本考古学協会
学術刊行物の名称：Japanese Journal of Archaeology
事業期間：平成25年度～平成29年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

‘Japanese Journal of Archaeology’は、日本考古学界初の英文電子書籍として創刊された日本考古学協会の英文機関誌である。完全オープンアクセスのウェブ・ジャーナルとして、国内外を問わず、日本考古学協会会員以外でも投稿でき、閲覧・ダウンロードも自由かつ無料にておこなうことができる。日本考古学研究の蓄積と先端研究の成果を世界に発信するとともに、本誌への投稿を通じて世界で活躍できる研究者を養成・輩出することも本誌の重要なミッションの一つである。このような目的の達成のために、編集委員会は国内と国外の委員で構成し、さらに国外の著名・先端研究者を中心とした顧問委員会を設けることで、国際的研究傾向の先端を反映させた編集方針を確立し投稿を促進している。また、主要国際会議・研究集会にてこの新しい国際誌の編集方針とコンテンツを、特別プリント版配布とオンスポット・プレゼンテーションにて広報し、本誌の国際的プレゼンスと海外読者・投稿者を広げるとともに、引用件数の着実な増加をはかっている。

具体的な評価目標として、国外の編集委員と査読者を70%程度に増やす。投稿数は、二年度以降徐々に増やす。刊行数は、三年度以降、年二回以上とする。掲載数（論文・研究ノート）は、初年度5本から三年度10本、最終年度には15本を目指す。アクセス数は、三年度1.5倍、最終年度2倍に増やすことをかかげた。



2 目標の達成状況

完全オープンアクセスのウェブジャーナル‘Japanese Journal of Archaeology’としてのプラットフォームを整備し、日本における考古学研究の総体の発信のために、Original Article（原著論文）、Review Article（展望論文）、Report（報告）のカテゴリーを設け、初年度Vol.1, No.1、二年度Vol.2, No.1、そして本年度は二冊刊行の予定で9月にVol.3, No.1を刊行し、良質な投稿も増加傾向にある。加えて、‘Archaeologia Japonica’（各時代・地域研究の最新成果の各年度のレビュー）また‘Noteworthy Archaeological Sites’（最新遺跡発掘調査成果紹介）を年一回掲載した。

編集委員会は、国内委員8名と国外委員6名で構成し、国内委員と国外委員がペアとなり、査読者も原則的に国内1名・国外1名を選任し、日本考古学の現状に十分考慮しつつ国際的に最高水準のピアレビュー体制を実現している。また、編集委員会のもとに海外先端研究者を中心とする顧問委員会を設け（現在国外研究者7名・国内研究者1名）、より広い視野と最高水準の学会状況認識と経験に基づくアドバイス・フィードバックにより不断の改革を進める体制をととのえてきた。アクセス数も、カウント開始から2015年9月現在までで累計31,034件に達し、コンスタントに上昇している。

今後の計画としては、海外投稿者数の増加とともに海外査読者を増やす。良好に機能している各委員体制をさらに強化するとともにプラットフォームとウェブサイトの改良等も加え、全体投稿数のさらなる増加、アクセス数の増加とともに、良質投稿数を増加させて引用数の増加につなげる。

